

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	慢性疼痛患者のセルフモニタリングを促す遠隔型看護ケアの構造化と有用性に関する予備的研究
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
新潟大学医歯学総合病院・四国こどもとおとなの医療センターのいずれかに勤務している看護師と、慢性的な痛みを持ちながらも安定した生活の継続を目指す患者さんが対象です。実施期間は倫理委員会承認後から 2026 年 3 月 31 日までとなります。	
③概要 慢性疼痛診療において看護師は、温かな思いやりに満ちた関係を築きながら寄り添い、患者さんが自分自身で「対処」しセルフマネジメントできる支援が求められますが、現在国内外で慢性疼痛患者さん(以下患者さん)への看護師が行うセルフケア支援は十分に明らかになっていません。また慢性的な痛みは不快な情動体験を合併していることも多く、認知行動療法(※1)を基盤とした認知と行動に働きかけることが必要となりますが、その導入には専門的な知識・技術が求められます。 研究代表者の木村らは、「いきいきリハピリノート」(以下リハノートと省略)を開発しました。これは認知行動療法に基づく運動促進法であり、患者さんはリハノートに「行動-身体の調子-考え-行動」と自分自身のねぎらいを記録します。これに対し、医療者が肯定的にフィードバックすることで、治療者との信頼関係の中から、安心感と自己肯定感が育まれることが期待されています。このリハノートは看護師にも理解しやすく、このリハノートを用いて慢性疼痛診療における看護師の役割を果たす可能性があるかどうかを検証したいと考えています。 この研究では、担当看護師が患者さんとリハノート(スマートフォン版)を用いて 1 か月に 1 回、6 か月間オンライン(Zoom)で面談を行います。患者さんはリハノート(スマートフォン版)に日々の記録を入力し、その後担当看護師(状況によっては医師・セラピスト)からフィードバックを受けることができます。 ※認知行動療法とは、ある出来事に対する考え方(認知)と行動を変えることで、問題への効果的な対処の仕方を習得させる心理療法です。	
④申請番号	2024-0009
⑤研究の目的・意義	本研究の主な目的は、看護師が慢性疼痛患者さんのセルフケアへの支援が可能かを明らかにすることです。この研究を通じて、慢性疼痛診療にかかわる看護師が、セルフケア支援に関する理解をより具体的に深めることができると期待されます。また慢性疼痛患者さんに対する看護支援の有用性を示すことも目指しています。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2026 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法(他の機関へ提供される場合はその	使用するデータは特定の個人が識別できないように配慮します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。

方法を含む。)	
⑧利用または提供する情報の項目	・看護師に関するもの 年齢・性別・経験年数・認知行動療法の自信度・看護師と患者さんとのオンライン(Zoom)による相互のコミュニケーション記録・いきいきリハビリノート(スマートフォン版)使用後の満足度に関する質問紙(1 種類)・看護師を対象としたグループインタビューの記録 ・患者さんに関するもの 電子カルテに保存されている患者さんの診療記録・看護記録、看護師と患者さんとのオンライン(Zoom)による相互のコミュニケーション記録、いきいきリハビリノートスマートフォン版の記載内容、慢性的な痛みに関する質問紙(6 種類)・いきいきリハビリノート(スマートフォン版)使用後の満足度に関する質問紙(2 種類)
⑨利用する者の範囲	新潟大学および以下の共同研究機関等で利用いたします。 ・新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科 病院教授 木村 慎二 ・国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター センター長 川崎 元敬 ・東京都健康長寿医療センター研究所 研究員 安藤 千晶
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科 病院教授 木村 慎二
⑪お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学医歯学総合病院 氏名：木村 慎二 Tel：025 - 227 - 0308 E-mail: skimura.med@niigata-u.ac.jp